

尾道市立市民病院オープンカンファレンス  
2011年9月8日

肝がんシンポジウム

尾道市立市民病院における肝細胞癌外科治療について

尾道市立市民病院外科

中井 肇, 松本 朝子, 村田 年弘

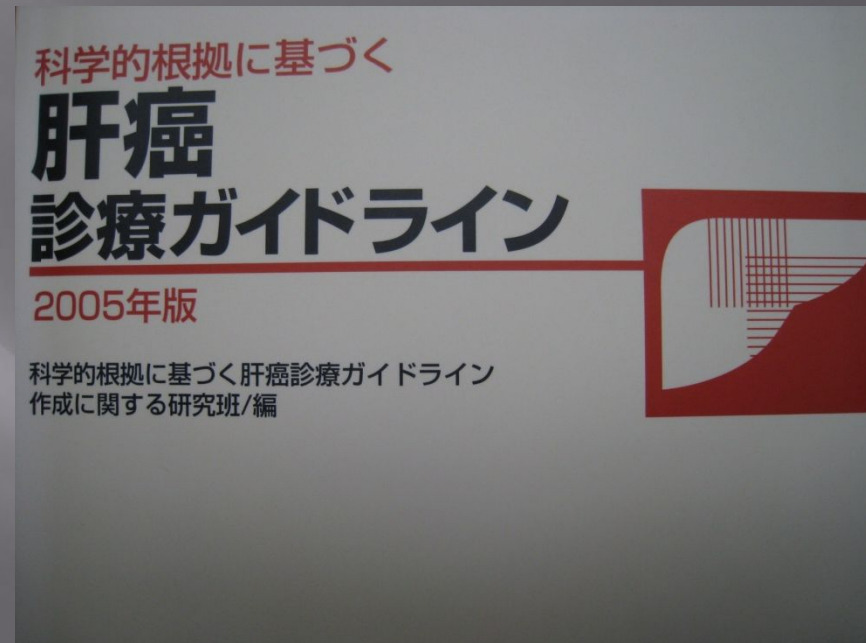
上塚 大一, 宇田 征史, 川真田 修

# 肝細胞癌治療

## I 手術療法(肝切除術)

## II 経皮的局所療法

## III 肝動脈(化学)塞栓療法



肝細胞癌に対する治療は上記の三つの方法に分かれるが、どの方法を選択するかは、肝癌診療ガイドラインに記載してある**幕内基準**による。ここでは肝細胞癌に対する手術療法(肝切除術)について、当科症例の検討を含めて報告する。

# 肝細胞癌治療アルゴリズム

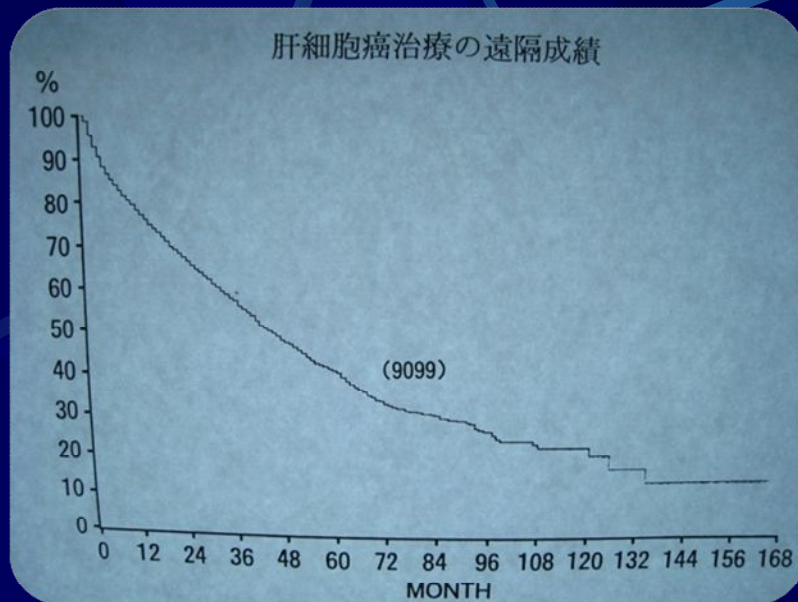
肝細胞癌の治療法選択における妥当な基準は？

【推奨】

肝細胞癌の病態に応じた治療法の選択基準として『幕内班アルゴリズム』が推奨される(グレードB)。



# 肝細胞癌切除成績(全国原発性肝癌追跡調査報告)



1978~1991

5年累積生存率 40.8%

肝細胞癌切除成績は年代とともに向上している。当科の肝細胞癌切除症例の5年生存率は**65.2%**と、全国肝癌追跡調査報告に比して良好なものであった。

1992~2003

5年累積生存率 53.4%

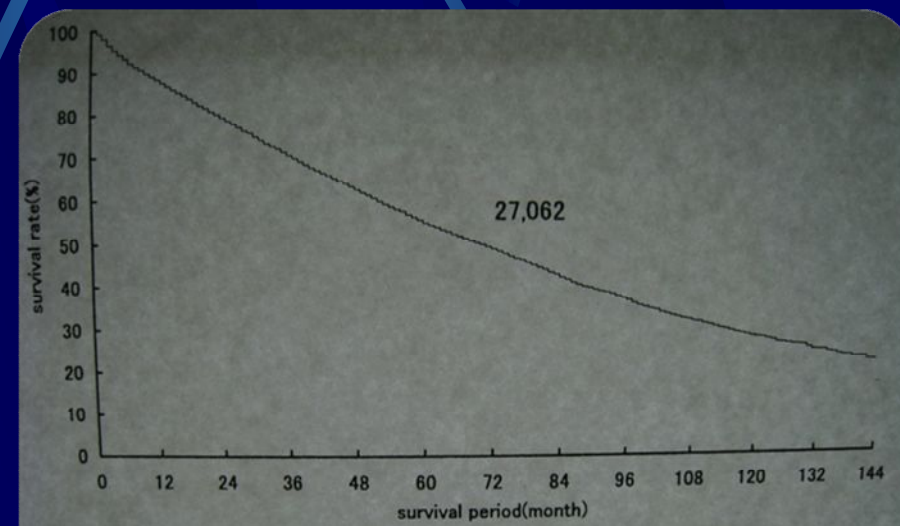
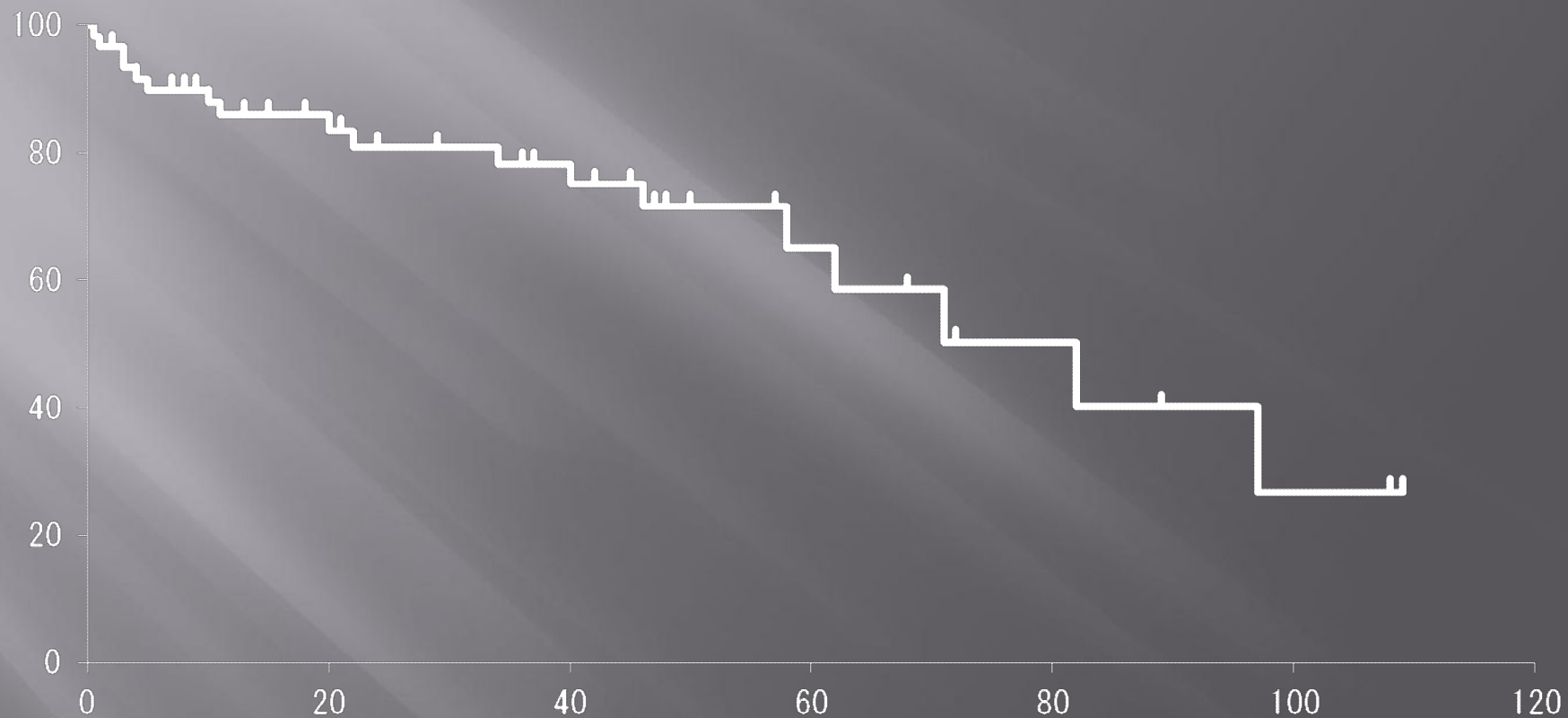


Fig. 2 肝細胞癌 肝切除 一全症例一

# 肝細胞癌切除症例の生存率(尾道市立市民病院)

(生存率)



5年生存率 65.2%  
MST 71ヶ月

(ヶ月)

# 肝細胞癌手術成績向上の要因

## ★術前肝予備能検査の確立

肝障害度 Child-Pugh分類  $^{99m}\text{Tc}$ -GSA肝シンチグラフィ  
(ICG R15, PT)

## MDCTの導入による術前肝切除シミュレーション

## ★手術手技の向上

解剖学的肝切除の導入(クイノーの亜区域分類,術中エコー)

新しい手術手技の導入(グリソン鞘一括処理, Anterior approachによる  
肝切除, Belghiti hanging maneuver)

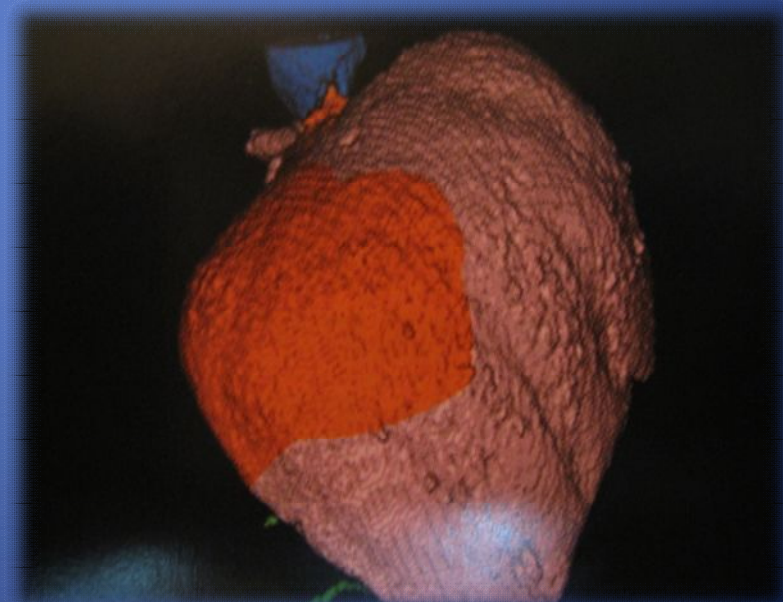
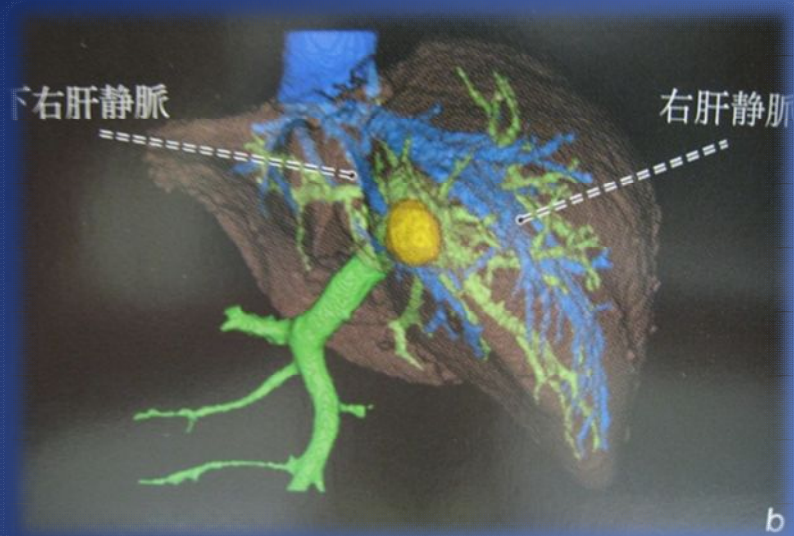
新しい手術機器の導入 (CUSA, アイソクール, 自動縫合器,  
超音波凝固切開装置(ハーモニックFOCUS®))

## ★周術期管理の向上

## ★術後再発に対する治療成績の向上

肝細胞癌手術成績の向上は上記のさまざまな要因によるもので、当科での最近の取り組みは術前肝切除シミュレーション,ハーモニックFOCUSの導入,周術期管理におけるNSTの介入等である。

# 肝切除シミュレーション



# 超音波凝固切開装置 (ハーモニックFOCUS®) 有用性の検討

## 肝切除症例

	FOCUS 使用例 (n=21)	FOCUS 非使用例 (n=27)	<i>p</i> value
手術時間 (分)	296 ± 103	368 ± 121	<b>0.031</b>
出血量 (ml)	301 ± 218	740 ± 693	<b>0.004</b>
ドレーン 排泄量 (ml)	158 ± 98	259 ± 229	0.063
在院日数 (日)	19.7 ± 10.6	25.7 ± 21.5	0.208



# 当院肝細胞癌切除術後の栄養管理

経過	非NST介入群	NST介入群
手術前日	夕から低残渣食	肝臓食 寝る前に消化態栄養剤 1本
手術日	絶食 水分不可	絶食 水分不可
手術後1日目	約85時間 絶食 水分不可	約43時間 夕食時より 消化態栄養剤 1本
手術後2日目	絶食 水分摂取可	消化態栄養剤 3本
手術後3日目	肝臓食 3分粥	肝臓食 3分粥 + 消化態栄養剤 3本
手術後4日目	肝臓食 5分粥	肝臓食 5分粥 + 消化態栄養剤 1本
手術後5日目	肝臓食 全粥	肝臓食 全粥 + 食事摂取量に応じて服用

## 【 結 果 】

		非NST介入群 (N=6)	NST介入群 (N=5)
術後経口摂取開始日		<b>術後3日目</b>	<b>術後翌日</b>
Alb (g/dl)	術後10日目	2.9±0.4	3.1±0.4
コリンエステラーゼ (IU/L)		156±84	137±49
総コレステロール (mg/dl)		132±19	137±14
不足分摂取熱量 (kcal)	術後3日目	<b>759±359</b>	<b>17±38</b>
	術後10日目	<b>391±312</b>	<b>253±330</b>
術後平均在院日数 (日)		<b>20.5±10.0</b>	<b>17.2±1.6</b>
合併症発生症例数		創部感染: 1例	創部感染: 1例

平均値±SD